

日本初!? 2回目の近代化遺産調査の実施!



客員研究員
土岐 博史

私とECP R

えひめ地域政策研究センター(ECP R)でお世話になった2年間は、思い返すとあつという間であった。早くも懐かしい感じがする。先日、ECP Rに行ったときも、「帰ってきた」と思わせてくれる雰囲気がある。そう思わしてくれるところがECP Rなのであろうと感じた。職種や経歴が全く異なる人が集うECP Rであったが、水と油の関係とはならず、お互いに溶け合って融合した良き仲間として、一緒に仕事をすることができた。

もちろん、ECP Rの仲間だけではない。私が担当していた事業や、ECP R主催の伝統ある「地域づくり人養成講座」などを通じて、ビジネスライクではない付き合いを数多くの方とすることができた。今後も、この2年間でいろいろな出会いを大切にしていきたいと強く思っている。

さて、私のECP R人生は、「近代化遺産」というキーワードに尽きる。このキーワードをご存じの方は少なからずいると思うが、ズバリ説明できる方はそう多くないと思う。私も当初は「う」であった。そして、この「近代化遺産」の調査は、岡崎直司さんとの出会いよりスタートした。岡崎さんの人となりについて書けば、それだけでこ



豫州銀行本店

のレポートの筆をおかないといけないため止めておくが、近代化遺産調査は岡崎さんなしでは成しえなかつた事業であったといつても過言ではない。この場をお借りして、岡崎さんに心からお礼を申し上げるとともに、執筆をいただいた方や、調査員の方々、各方面でご協力をいただいた方々に対しても、感謝の気持ちでいっぱいである。

近代化遺産総合調査事業

私がECP R在籍中に取り組んだ「近代化遺産総合調査事業」の概要について紹介したいと思う。

近代化遺産とは、「幕末から第二次世界大戦終了時までの間に建築され、近代化に貢

献した産業・交通・土木・生活文化・その他に関わる建造物」のことである。

また、今回の調査で特筆すべきことは、愛媛県では近代化遺産調査を2度行っていることである。2度ともECP Rが受託し、1回目は平成13、14年度に行い(「愛媛温故紀行」)、2回目は今回となる。

1回目の調査は、県民環境部の所管で、県内にある近代化遺産の発掘と県民へのPR、それを梃子としたまちづくりや地域の活性化を意図したものであった。今回の近代化遺産総合調査は、文化庁の国庫補助事業として行われ、将来の文化財指定や登録をにらみながらの調査で、資料的・学術的な面に重点をおいている。2回目の調査ということもあり、建造物調査を基本としながらも、産業との関わりに着目して調査・分析、記述をしている。そうすることで、近代化遺産と地元との関係がわかり、地域の人にとってより身近な近代化遺産になること、なにより文化財である前に建造物をつくり、使いこなし、生活の糧にしてくれたのは地域の人たちであることを実感してもらえるのではないかと考えたのである。

報告書の構成は、「愛媛温故紀行」では、「土木」「産業」「建築」「その他」の4大分類・26中項目に分類したが、今回は6大分類30中項目に分類している。大分類は、「第一次

地域別の近代化遺産の特徴

愛媛県の近代化遺産総数は約1,300件であった。愛媛県における近代化遺産の

産業「第二次産業」「第三次産業」「交通・土木」「生活・文化」「軍事・戦時」である。また、建造物調査などで、図面や写真などの収集、図面のない物件については測量して図面をおこし、構造・意匠などの建築学的調査をおこなって、後の展開に役立つようにした。

文化庁の補助事業による全国的な近代化遺産調査は、終盤に近付いているが、過去のデータと比較分析したような近代化遺産調査報告書はおそらくないであろう。近代化遺産に着目した愛媛県であればこそ、できた調査であるといえる。



旧端出場水力発電所



船戸川橋



旧制松山高等学校講堂



東洋紡川之石工場原綿倉庫

特徴は、東予・中予・南予の地域別にみていく方がわかりやすい。産業自体、地域の歴史と地形・気候風土に左右される面が多いからである。

東予では、今治市がほとんど全産業を通じて近代化遺産が数多く残っており、東予の半分近くを今治市が占めている。また、新居浜市では「第二次産業」が多い。今治市と新居浜市とを合わせると、県内における「第二次産業」の5割近くを占めている。

中予は、近代化遺産の数では、他の地域の約半分だが、県都松山を含むだけに優品が残っている。また、県都を含むが故に、解体されたものも多いといえそうである。伊予鉄道および道路関連施設の土木遺産や、愛媛県庁舎や松山測候所、松山女学校正門などの優れた公共建築が数多く分布する。南予は、「第一次産業」と「第三次産業」の

最後に

今回の近代化遺産総合調査事業自体は報告書の完成を持って完結したが、大切なのは今後であると考えている。できあがった報告書を多くの方に活用していただき、文化財の保護だけにとどまらず、身近にある近代化遺産を地域の資源の1つとして、特色のある地域づくりのお役に立てていただきたいと切に願っている。

近代化遺産が多いのが特徴的である。また1つの都市に偏らず、いろいろな市や町で特徴を分かち合っているといえる。「第一次産業」はほぼ農業遺産で占められ、「第三次産業」は港町の関係で八幡浜市の「運輸・海運業」「商業・観光」遺産がきわだっている。